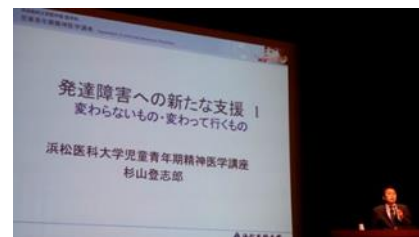


「発達障害への新たな支援」

～ 変わらないもの・変わって行くもの ～

講 師 浜松医科大学児童青年期精神医学講座
特任教授 杉山 登志郎 先生



平成 27 年 11 月 14 日(土) 紀南文化会館 小ホールにて和歌山県発達障害者支援センター ポラリス開設 10 周年記念講演会を開催致しました。

和歌山県障害福祉課 中林課長、社会福祉法人 愛徳園 塩崎理事長、和歌山県発達障害者支援センター ポラリス 辻センター長からご挨拶をさせていただきました。

また、和歌山県 仁坂知事、和歌山県自閉症協会 大久保会長、相愛大学 桑原名誉教授 ポラリス嘱託医 宮本医師からご祝辞を賜りました。別途 添付しておりますので、ご参照下さい。

10 周年記念特別講演では、長年にわたり発達障害児者の治療を最前線でされている杉山 登志郎医師を講師としてお招きしました。「発達障害への新たな支援」変わらないもの・変わって行くものをテーマに、第 1 部・第 2 部の講演と、聴講者からの質疑応答の形式で開催をさせていただきました。

第 1 部講演では、発達障害の拡がり、幼児の脳機能、親や支援者を中心とした療育の基本についてなど下記の通りご講義頂きました。

自閉症スペクトラム障害は 2%、注意欠如多動性障害・学習障害はいずれも 3 - 5%が診断基準を満たし、文科省調査では通常クラスに 6.5%、支援・通級クラス・支援学校には 2.9%と発達障害を持つ生徒が在籍しているとの調査報告がある。いずれも増加傾向にあり、米国では 1 割、英国では 2 割の生徒が特別支援教育を受けている。諸外国では、ギフテッド教育があり、その中に、発達障害の傾向を持つ生徒が教育を受けているために割合としては高い数値を占めている。

成人の脳は約 1300 g であるが 3 歳までには 1000 g を超える。幼児の脳の特徴として、ダメージに対して代償が働きやすく、3 歳前までは言語中枢の代償が可能である。また、10 歳までは成人よりも大きな回復を示すため、なるべく早くから子どもを支援していくことが好ましいと考えられている。発達障害・知的障害は、病院を中心に専門家が医学的治療を行う医学モデルというよりは、毎日の生活を中心に親や保育士が子どもの健康な生活を作る生活モデルを中心とした療育が基本である。好ましくない療育としては、放置が挙げられる。さらに、親が学ぶことができない療育も好ましくない。親が子育てを学べる場が必要であるとのこと。療育をするうえで大切なことの一つは愛着形成である。例えば、公園などで子どもが親から離れて少し遊びまた親の

元に戻って来ては離れるような愛着行動を、発達障害をもつ子どもが示すのは少し遅く、小学校中学年ぐらいである。これらのことについて親が学べる機会を持つことは重要であり、ほめ方教室と発達の凸凹に対する心理教育を中心としたペアレント・プログラムは、参加された親のうつ傾向が下がるとBDI-IIなどの評価尺度において結果として示されている

療育の基本的な指導内容は、1. 早寝早起きといった生活リズムの確立、3 食とおやつを過不足なく摂り適度な栄養と適度な運動をするといった健康な生活が大切 2. 養育者との信頼と愛着の形成 3. 遊びを通しての自己表現活動 4. 基本的な身辺自立 5. コミュニケーション能力の確立 6. 集団行動における基本的なルールの習得である。情報についても今日あつという間に情報過多になりやすく、情報を制限し適度な情報にする必要がある。発達障害は、本人に合わない対応をしなければ日々成長する。子どもには、何をしてほしいかわかってもらえれば成功であり、見せる ⇒ 一緒にやる ⇒ 本人にやらせるが基本である。特性を持つ子どもには、新しい課題をさせる時には根気が必要である。青年期には、家事労働や自立のための練習をすることが大切である。また、幼少期にスパルタの療育を受けるなど無理を重ねると、青年成人期に気分が上下がみられるケースもあるとのことであった。

第2部講演では、発達障害に含まれる4障害と自閉症の中核となる過敏性の問題や精神病理、発達障害児者が抱えやすいトラウマの処理についてなど下記の通りご講義頂きました。



知的能力障害は、現在は罹病率としては1%前後である。知的能力の遅れがあり、コミュニケーション・仕事・学業・生活面などにおいて年齢相応の適応に障害があるもの。注意欠如多動性障害は、自閉症スペクトラム(ASD)との併存例が6割を超えている。幼児期から困る多動は、AD/HDだけではなく、ASDおよび子育て困難を抱えているケースが多い。多動だけの場合は9歳頃から軽快していくため、一般的には、小学校低学年時のハンディキャップをどのように減らすかが課題である。多動、衝動行為により二次的な情緒的問題の方が後年の適応に強く影響する。不安や抑うつ、虐待がからんだ多動性行動障害が高率に非行に移行している。自閉症スペクトラムは、社会的コミュニケーション・想像力の障害に加え行動の障害、知覚過敏性の問題がある。発達早期から存在するが、後年に明らかになる場合もある。自閉症の認知は、狭いところから見ているために全体を捉えていない。例えば、定型発達者は、生き物 哺乳類 ペット いぬ 小型犬 ジャックラッセルテリアという並びにおいて「いぬ」を中心に捉える中心概念が一般的である。自閉症圏の方は、ジャックラッセルテリアといった小さい方から捉えていくことが特徴であり、これらの独自の認知構造と発達の道筋を持っている。自閉症の中核の問題として、過敏性の問題がある。過敏性のある方は生まれつきずっと独自の感覚なので、他者から指摘されなければ過敏の問題についてはわからない。また、遙か昔のことをあたかもつい先ほどのことのように扱うタイムスリップ現象がしばしばみられる。さらに、トラウマの防波堤・バリアーの役割となる愛着形成(本来幼児期に獲得すべき発達課題)が、学童期後半にずれのためトラウマを受けやすい状況となっている。養育者に対するリスクとしても、子どもとの愛着行動の遅れが強い欲求不満を感じやすく虐待の発生リスクを招きやすくなる。

困難と言われるケースは、発達障害が原因ではなく、発達障害に加えて迫害体験やトラウマなどが重なったケースが多い。対応困難を予防するためには、やはり早期に診断することが重要であり、愛着形成に向けた準備や過度な叱責や迫害体験などを予防することが大切である。発達障害の方が持つトラウマや迫害体験に対

して、EMDR という治療法がある。これらは、発達障害を持つ方は、2つのことを一緒にすることが困難な特性を活かし、パルサーを用いて、想起 + 受け身の交互刺激を行う。エピソードに対して個別に実施することで数分間でのトラウマ治療が可能である。

今回の講義のテーマにある変わらないものとしては、発達障害を持つ方に対する治療は、医学モデルではなく、親や保育士・教育が中心となった生活モデルであること。子どもの迫害体験を予防する、養育者側の子育てに対する強い欲求不満を軽減していくために早期診断早期療育が本人・保護者側に必要であること。早寝早起きを基本とした生活リズムの確立、3食 + おやつで適切に栄養をとること、適度な運動を保障するといった基本的な生活の維持、将来の独り立ちに向け、参加できる学校が一番良い学校であり個々に応じた適正な就学の選択、自立や就職に向け仕事の練習を早期から行うことが大切である。

また、変わって行くものとしては、発達の凸凹の拡がりが見られ、個々に応じた療育が重要になってくる。以前は、何もかもそろった療育センターが中心であったが、今後は、子どもの生活の練習やピアレントレーニングを基本とした小規模での療育を中心としていくこと。親側にも発達凸凹の特性を持つ方もしばしばみられることもあり、親子に対する治療が必要となってくる場合もある。保護者を支えていき保護者を中心とした療育プログラムも必要になってくること。発達の凸凹において、得意な面に目を向けていく必要があり、彼らの認知の方法などはプラスな方向に転化可能である。

本人や保護者が悩まれることの多い学校の進路選択については、普通学級、支援学級、支援学校とどこに在籍し卒業したとしても、特に将来的な適応に差はない。参加できる学校が一番良い学校であるとのことでした。

最後に、杉山先生には、大変お忙しいところご講演いただき誠にありがとうございました。約 2 時間にわたるご講義と参加者の皆様からのご質問に対してとても丁寧にお答えいただきまして感謝しております。おかげさまで、参加者の皆様が知識と元気、勇気を受け取り、明日からの活力を得ることができました。本当にありがとうございました。

末筆になりましたが、杉山先生のますますのご活躍をお祈り申し上げます。



<質疑応答での様子 ・ 左：座長の紀平先生 右：回答される杉山先生>

皆様からの声

講演会終了後、アンケートを回収させていただきました。

以下 いただきましたご意見を一部抜粋して掲載させていただきます。

| | | | | |
|-------------|-------|----|-----------|-------|
| * アンケート回収枚数 | 178 枚 | うち | 参考になった | → 168 |
| | | | どちらでもない | → 0 |
| | | | 参考にならなかった | → 0 |
| | | | 記入なし | → 10 |

みなさまからいただいた感想から

- ・ 全てが聞きたい話で参考になりました。10周年にふさわしいいい講演でした。
- ・ 最新の知見と支援の現状変わらないもの変わっていくものという視点がよかったです。
- ・ 専門知識をわかりやすく講義してもらえました。
- ・ 発達障害は子どもの数だけパターンがあって奥が深いと感じました。
- ・ 発達障害の基礎的なところをもう一度学び直せる良い機会でした。
- ・ 遺伝などの研究、母親の関わり方に気をつけて支援していく必要性など、参考になりました。
- ・ 早期対応の重要性に改めて気づくことができました。
- ・ 虐待児は第四の発達障害と聞き、なるほどと思いました。
- ・ 医学的、生物学的観点をもって今の新たな発達障害の支援、凸凹の原因を教えてもらえてよかったです。
- ・ 発達障害の治療は、医療ではなく教育と述べられたことが衝撃的でした。
- ・ 脳の代償について詳しく教えていただきありがとうございました。
- ・ 前頭前野の発達によって衝動性がおさまるまでは教えていただき、参考になりました。
- ・ 現在勉強していたことに理論の後押しがあり、相談で実践する勇気をもらいました。
- ・ 変わらないもので自分の知識を再確認できました。変わっていくもので今度の見通しを持つことができました。
- ・ 見方や感覚が猫と同じという捉え方、今後の支援の考え方が少し見えました。
- ・ たくさん質問に答えていただき、具体的な例が出てきたのでよかったです。
- ・ 途中で質問を提出できた事がすごく良かったです。最後に質疑応答しれもらえたこと、大変勉強になりました。
- ・ いつも恥ずかしくて質問できなかったので、2つも答えてもらえてとても嬉しかったです。
- ・ MRも発達障害に含めておられる点がよかったです。
- ・ 今後の対応を模索していくことになりましたが、気長に待ってあげたり、聞いてあげたりして、少なくとも一方的に叱責することは気をつけようと思いました。
- ・ 診断がつくことは親にとってしんどい事ですが、本人や家族にメリットがあると聞いて、色々な方向で見たいと思います。
- ・ 子どもだけでなく、親も含めて療育(トレーニング)していくことの重要性がわかってよかったです。
- ・ 療育、子育てに関する土台を改めて学ぶことができました。

- ・ ゲームやお稽古など普段から気になっていた事について、具体的な説明や時間と回数の目安など聞くことができました。今後の相談の中で活かしたいと思いました。
- ・ 発達凸凹児、保護者などの弱い立場、少数派の立場から考えて話していただけているのが大変ありがたく救われる思いでした。
- ・ 自閉症スペクトラムの子ども達との付き合い方、考え方について再確認できました。
- ・ 早期から自立と仕事の練習が必要である事は、青年期の就労支援をする中で実感していました。早期のチェック早期療育からスタートし、就労や社会的自立までトータルな支援システムが必要だとわかりました。
- ・ 生活面での対応の重要性についてよくわかりました。支援の方向も見えてきてよかったです。
- ・ 発達児と関わる上で何が大切か、何が必要か、不足している支援など、これからしていかなければならないことがよくわかりました。自分の立場でもできることがあると思うので、日々の仕事に活かしていきたいです。
- ・ 本校にも愛着障害の子どもがおり、講演内容と重なるものが多々ありました。関わり方をもっと密にして子どもを知ることに、寄り添うことが大切だと改めて感じさせられました。
- ・ 小学校でいじめ体験をした生徒が不登校になることが多いです。トラウマ処理のお話に希望を持ちました。
- ・ 発達障害について勉強することは、通常学級の生徒の支援にもつながることが理解できてよかったです。
- ・ 健診の落とし穴について行政に訴えていく必要があると思いました。取りこぼして入学する子どもの対応を考えたいです。
- ・ 適正就学や学校教育が社会に出ていくために大切なことだと改めて感じました。
- ・ 社会構造が変化していく中で、教育関係者という立場で、子どもと保護者への接し方、見方を考え直すよいテーマだと思いました。
- ・ 学級の中には色々な子がいますが、障害を理解して対応していかないとその子の人生をつぶしてしまう怖さを再確認しました。
- ・ これまでは学級の中の困った子という捉え方でしたが、現在の発達障害の研究成果を聞いて理解が進みました。

要望・改善してほしい点について

< 講演内容 >

- ・ 実際の愛着障害の子どもへの具体的な対応が知りたかったです。
- ・ 概要だけではわかりにくい部分があるので、具体的な症例の話が聞きたかったです。
- ・ 学校の教師向けの内容だったので、施設職員としてどう関わればよいかヒントが欲しかったです。
- ・ 支援者として親にどう伝えていくか、その点を聞きたかったです。

< 運営・進行 >

- ・ 入場料を取ってもよいので机がほしかったです。
- ・ 参加費を負担してもよいので、会場にもう少しゆとりがほしかったです。欲を言えば机もほしいと思いました。
- ・ 休憩が長かった。10分で十分だと思った。

- ・ もう少し時間的にコンパクトでもよいのではないかと思います。
- ・ マイクのせいなのか、聞き取りにくい所が多々ありました。
- ・ パワーポイントの資料は全てほしかったです。
- ・ いつも定員オーバーになってしまったと思います。今回も断られた方がチラホラいるようなので、大ホールを利用するなどして、もっと定員を増やしてほしいです。良いお話を多くの人に聞かせてもらいたいです。
- ・ 参加できなかった人もいるということだったので、このような機会を各圏域で持ってほしいと思いました。
- ・ もっと学校現場の管理職の方や保健師さんなどにも参加いただいて、親を支えていただける環境づくりに繋がる講演会にしてもらえたらと思いました。

ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・ どんな事業をしているのかわかりにくいです。和歌山県の中でどのような立ち位置、役割なのか、関係職種なども図式化等して分かりやすくしてほしいです。
- ・ 成人期への支援。ツケが来ていると思います。
- ・ 教育委員会、学校、幼稚園、保育所、市の福祉課、保健師等のネットワークを市単位で作っていく際にポラリスの様な機関が働きかけてくれると、今日の話にあったような「入級時に心はボロボロというケース」を防げるのではないかと思います。
- ・ 教育現場(普通学級担任)として、発達障害の児童も含めた学習形態や対応のシステムをきちんと構築していかないと、学級崩壊や学校体制崩壊につながるのではないかと危機感を持っています。
- ・ 成人までの一貫した支援が必要になることは大きな課題です。幼保小中の連携は、まだ密とは言えないと思います。
- ・ 強度行動障害の改善策や改善方法について、ネットで参照できるようなシステムを是非作ってほしいです。
- ・ 一般の方にもわかりやすいパンフレットを作ってもらえればと思います。
- ・ 私達が知らないところで市民の方への支援を頂いていることが多くあるのだろうと思います。
- ・ 具体的な活動内容、学校現場への活用方法(先生方への研修など)に関心があります。
- ・ 青年期の支援について、どんな事をしているのか教えてほしいです。
- ・ 若い人達など誰でも訪れやすいセンターになりますように。
- ・ ポラリスの活動をもっと多くの若い人に知ってもらいたいです。
- ・ 教育との連携、支援者養成について関心があります。
- ・ ポラリスと学校、医療がどう連携するかに関心があります。
- ・ 相談回数を増やしてほしいです。その時の報告もお願いしたいです。
- ・ 紀南の相談回数、支援回数を増やしてほしいです。
- ・ 親への支援、子どもへの対応を含め、紀南の子ども達が相談できる機関を増やしてもらいたいです。
- ・ 幼児期から主治医に相談したいと希望される保護者が増えていますが、予約が取れずに困っています。専門医を各圏域に充実されてほしいです。特に児童精神科を充実させて、青年期に向け支援できる体制がほしいです。
- ・ 発達障害の親への講習、関連機関と共同で定期的な講座を開催してほしいです。

- ・ 障害に関係なく子育てについての講座を開催してもらいたいです。
- ・ 今後も啓発的な意味も含め、発達障害の入門講座をしてほしいです(具体的な事例を含む)。
- ・ 今日のような発達に関する研修を学校管理職、教育委員会、役場(長)の方を対象に行っていただきたいです。まだまだ理解が進んでいないように思います。
- ・ ポラリスは北極星で目指す方向です。重度の子ども達はいつも置いてきぼりです。彼ら彼女らに方向を。
- ・ 保護者への対応、保護者の状態を把握した上で子ども同士のトラブルについて伝えること。
- ・ どんまいプログラムに興味があります。参加型のワークショップが色々あるといいなと思います。
- ・ ポラリスの相談者数が増えたこと、特に青年成人期が6倍以上に急増したことにビックリしました。
- ・ いつも地に足のついたコーディネートをありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- ・ 支援学校の教員の専門性向上のため、いつもご支援ありがとうございます。
- ・ ここまでして頂いてよいのかと、本当に心より感謝しています。苦しい時いつでも手を差し出せる場を得られたことで母として自信を取り戻しつつあります。

アンケートに対する回答

- ・ 診断はないが凸凹はあって悩み、ポラリスへ相談していいものなのかと思いました。
 - ⇒ ポラリスの相談に来られる方の6割は、未診断の状態です。まずは、ご遠慮なくお電話ください。
- ・ コンサルテーション事業について関心があります。
 - ⇒ 当事者が各ライフステージで利用している機関を直接訪問し、支援者に対して助言・指導を行い、発達障害の理解度と支援スキルを向上させる事業です。
- ・ 学校から直接相談できる道を作ってほしいです。
 - ⇒ ポラリスの相談では、ご本人・ご家族だけでなく学校からも直接ご連絡頂いております。生徒のことについて相談させて頂く、上記のコンサルテーション事業を通して協議する時間を持っています。
- ・ 当事者のグループ活動について詳しく知りたいです。
 - ⇒ ポラリスホームページの「.COM」に掲載しております。

次回以降の講演会への要望

- ・ 杉山先生のトラウマ処理の話を聞きたいです。もう一度講演会をしてほしいです。
- ・ フラッシュバックの治療内容にはどのような方法があるのか、もう少し詳しく知りたいです。
- ・ 今日のように事例をたくさん持っている方の講演会を開催してほしいです。
- ・ 今後も今日みたいになかなか聞けない人に来てもらいたいです。
- ・ 紀平 Dr による愛着形成・トラウマ処理や、和歌山県内の療育・医療の現状と展望についての講演会

- ・小野先生の話も聞いてみたいと思いました。
- ・服巻智子さんと呼んでほしいです。
- ・有名な当事者の話を聞きたいです。
- ・ポラリスで呼ばれる講師は聞いてよかったと思う人が多いです。
- ・各場所での障害児者への合理的配慮
- ・発達障害の脳科学を掘り下げた内容
- ・愛着障害、トラウマについて
- ・発達を抱えた子どもへの関わり方、見分け方
- ・青年期の二次障害、親子関係について
- ・成人分野の発達障害に関する講演
- ・自閉症児への遊びや勉強の教え方など、具体的な内容が組み込まれた講演が聞きたいです。
- ・早期発見、5歳児検診、特別支援教育、通級や学童、児童デイとの連携など
- ・子ども — 成人に分けての支援と実際の事例を具体的に知りたいです
- ・ペアレントプログラムなど保護者支援、ほめ方教室、凸凹に対する心理教育
- ・乳幼児の子育て支援(親の子育て力を豊にするための支援)について
- ・家族支援と地域での連携支援の在り方
- ・重度の子ども達をテーマにした課題を取り上げてほしいです。重度でも何が取り組めるかということを探し求めてほしいです。
- ・母親が一人で頑張らなくてもよいのだと思える講演会をお願いします。
- ・具体的な支援の仕方(家庭、学校でできる、例えばワーキングメモリーの弱い子への学習面、生活面の支援)
- ・具体的な事例(失敗例、成功例とも)を紹介してくれる研修会をもってほしいです。
- ・気になる子どもの保護者に対しての保育士からの働きかけについて
- ・学校に行けない、行きたくないのはどうしてか。どう対応するのがよいか
- ・不登校の子どもへの対応の話をしていただきたいです。
- ・現場での具体的な対応の仕方、授業中の声かけ、パニックになっている時の対応方法
- ・大人の発達凸凹について、年齢と共に変化する部分と変化しない部分があるのか
- ・就労に関する講演
- ・グループワークもしたいです。
- ・デパート型講演会よりもコンビニ型講演会があればいいなと思います。
- ・保護者が参加しやすいように保健所単位で講演してほしいです。
- ・若い教育者が参加しやすい講演会を多く持ってもらえたらうれしいです。
- ・土曜日の開催
- ・会場を和歌山市にしてほしいです。
- ・紀南で講演会をしてほしいです。

この他にもいただきました沢山の貴重なご意見・ご感想を、
これからの活動に活かしていきたいと思います。

どうもありがとうございました。